

令和5年度 品川区子ども・子育て会議

第1回議事録

令和5年度 第1回 品川区子ども・子育て会議

議事次第

日時：令和5年6月6日（火）14:00～16:00

場所：品川区役所議会棟6階第1委員会室

1. 開 会

2. 議 事

(1) 報告事項

- ① 品川区子ども・子育て支援事業計画の令和4年度実績報告について
- ② 空き定員等を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業について

(2) その他

- ① 今後のこども家庭政策の方向性と課題～包括的な子ども・子育て支援へ～
- ② 今年度の会議予定について

3. 閉 会

(配付資料)

- 資料1 品川区子ども・子育て会議委員名簿
- 資料2 品川区子ども・子育て会議の概要
- 資料3 品川区子ども・子育て会議条例
- 資料4 品川区子ども・子育て会議運営要綱
- 資料5 品川区子ども・子育て支援事業計画実績資料
- 資料6 空き定員等を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業について
- 資料7 今後のこども家庭政策の方向性と課題～包括的な子ども・子育て支援へ～

1. 開会

■事務局

・今回から第6期となり、委員の改選があったので、会長・副会長の選出まで事務局が司会を務める。

・委員の皆様には事前に委嘱状を送付させていただいた。2年の任期期間中、ご意見を賜りたい。

・本日は、副会長は遅参するが20名中16名の出席。品川区子ども・子育て会議条例第6条第2項における委員の過半数の出席要件を満たしているので、本会議は成立する。

・傍聴者1名。

(1) 子ども未来部長あいさつ

(2) 委員自己紹介

(3) 事務局職員紹介

(4) 会長・副会長の選出

■事務局

・以後は、会長に会議の進行をお願いする。

2. 議事

■会長

・ただいまから令和5年度第1回品川区子ども・子育て会議を開催する。

・本日は第6期の第1回なので、まず、子ども・子育て会議の位置づけ、概略について事務局から説明を願いたい。

*事務局より資料2について説明する。

■会長

・最終的には区が判断し、区の責任で事業を実施するが、その前に関係者の意見を頂戴する会という位置づけになる。

・本件に関し質疑はないようなので、早速、議事に入る。

(1) 報告事項

①品川区子ども・子育て支援事業計画の令和4年度実績報告について

*事務局より資料5について説明する。

■会長

・まず、委員からいただいた事前質問にお答えする。

■事務局

問) 区長が導入を明言されていた仕出し弁当はいつから実施するのか。

答) 今年度の夏休みから、一部のすまいるスクールにおいて試行実施する。その結果を踏まえて、その後の展開を検討する。

■委員

・仕出し弁当は既に他の自治体で導入されているところもある。導入にあたり、すまいるスクール利用者数に応じて弁当数に変動することや献立への不満など難しい課題もあると思うが、子育て世代を支援できる制度であり、朝の忙しいときに利用したい方もいると思うので、利用したい方・したくない方などいろいろな事情に応じて選択できるようになるとよいと思う。

■事務局

問) 保育園利用者もオアシスルームを利用できるようにしてほしい。利用できない理由は何か。

答) オアシスルームは、在宅で子育てをしている方々のリフレッシュを目的として作られた施設である。近年、保育園利用者からも要望があるが、区内12か所で定員も限られているため、現在は保育園を利用していない在宅子育て家庭を対象としている。

問) 利用者数は延べ人数なので、同じ人が何度も利用されているのではないか。登録、面談、予約等で敷居が高い。産後にオアシスルームの利用チケットを配布し、利用のきっかけを作ることには可能か。

答) オアシスルームの利用は任意の申込みが原則である。生まれたばかりの頃や育児で大変なときに親自身が持つ預かりそのものに対する抵抗感が、一時預かり事業全体の課題だと認識している。人に預かってもらうことは悪いことではないという雰囲気醸成、意識の改革が大事かと思う。予約が取りづらい状況が続いているが、予約システムの改修、兄弟利用のしやすさなど、利便性の向上を進めていきたい。

問) しながわっ子 子育てかんがるープランの実績数が減少している理由は何か。

答) 正確な理由は分からないが、子育てに関する情報発信が充実してきていることも一つの要因として考えられる。

意見) 就学前人口が減少しているのに子育てに関する相談件数が増えているのは、子育ての悩みを抱えている人の割合が増えているからだと思う。相談している人は氷山の一角で、相談したくてもできない人もたくさんいると思う。

■委員

・品川区は子育てに力を入れており、保育園の数も増え、待機児童が減っている。私の頃

は1人目のときは第6希望、2人目は第8希望まで書くことになっていた。これからの施策にも期待したい。

■委員

・待機児童が実質ゼロになり、今後は質的な面を意識して取り組むという報告があったが、どのような情報を得て、どのように取り組んでいくのか、質的な向上に向けての具体的な方針を伺いたい。

・延長保育に関して伺う。図表6-1の実績から、保育園の数は十分だと捉えているのか、まだまだ少ないので拡充していこうと考えているのか。私自身は、個人の要望に応じて早朝も夜間も使いたいときに使えるような体制が整っていると、仕事の面でステップアップ、キャリアアップがしやすいと思う。

・オアシスルームについては、土日に冠婚葬祭があって小さい子どもを連れていきにくいときや、土日に仕事をしている者が利用できるとうい。

■事務局

・待機児童は2年連続でゼロになったが、今後も待機児童が出ないようにしていくことが先決だと考えている。質の部分については、保護者の意見や保育者自身の研究の成果を保育課できちっと把握し、全面展開することで高めていきたい。

・私立保育園では、毎月一遍行われる私立保育園長会の中で、各園が日頃感じていることなどを集約しながら、質のレベルアップに取り組んでいる。

・延長保育に関しては、仕事の内容によって時間帯や預かる時間の長さの違いがあることは理解している。リソースに限りがある中で、どのようなバランスで提供できるかを検討していきたい。

・延長保育は、保育士のシフトとの兼ね合いもあるので、要望を受け止めながら、徐々に改善を図っていきたい。

・オアシスルームに関する要望については、検討課題とさせていただきたい。

■委員

・保育園の申込み時に第8希望まで書くという話は理解し難い。第8希望で保育園に入れたのだから待機児童0人というのは、本当に子育て支援ができているのか、私たちの作った方程式では見えない部分もあるのではないかと心配になった。

■事務局

・第8希望まで全部埋めなければならないわけではないが、できるだけ要望に応えられるように多めに書いてもらっている。

②空き定員等を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業について

*事務局より資料6について説明する。

■会長

- ・事前に委員からいただいた質問にお答えする。

■事務局

問) この事業は、9施設で1日何人預かっているのか。

答) 実施する保育園の空き状況にも左右される。初めてのことなので、少ない規模から始めて、ノウハウを蓄積していきたい。

問) 優先利用以外の方々は、どれくらい使えるか。

答) 施設が増えてくれば様々な方の利用も可能になるが、現段階では優先利用のところから始めて小さい規模で実施していきたい。利用費用は、制度設計上は国の事業については無料、都事業は一定程度の自己負担が生じることを想定している。

問) 定期的な預かりモデルとオアシスルームの違いは何か。

答) オアシスルームは、1日4時間程度の一時的なリフレッシュを目的とし、定期的な預かり事業は、週1日から2日程度の継続的な利用を通じて、お子様の育ちに着目した支援を行うことを目的としている。

■委員

・双子の保護者や孤立しがちな方々を優先的にということだったが、図4-1（ゼロ歳児）と4-2（1～2歳児）に示された数字から推定すると、合計で4,378人が対象になる。全ての母親が週に1～2回利用することは現実的には難しいと思うので、オアシスルームも含め、誰もが利用したいと手を挙げたときにスムーズに支援・利用できるような取組になるとよい。

(2) その他

- ①今後のこども家庭政策の方向性と課題～包括的な子ども・子育て支援へ～

■会長

- ・副会長より説明する。

■副会長

・少子化に直結する未婚率が、1980年は男性2.6%、女性4.45%だったのに対して、2020年は男性28.25%、女性14.85%と著しく上昇している。平均初婚年齢、第1子出産平均年齢も1980年と比較して4～5歳上がっており、少子化の進行は深刻な状況にある。

・少子化対策で考えるべき3つのライフステージがある。一つは結婚前の問題で、今の若い方は安定した収入の下で結婚し、子育てができる働き方が少なくなっている。もう一つは、高等教育に進学すると莫大な教育費がかかり、数百万円の借金（奨学金の返済）を背負って社会に出て行かざるを得ないという問題がある。この子ども・子育て会議では、真ん中の子育て期の部分を考えることになるが、各ステージのボトルネックにも着目した上でご検討いただきたい。

- ・キャリア形成のために土曜、日曜にかかわらず受入れ預かりをすることは重要だが、同

時に、働き方の見直しも重要である。先進国で日本の働き方、特に女性については一番劣悪な状況にある。平成7年度以降の少子化対策の最大の欠陥は、仕事・子育ての両立支援という名の下で、両方が歩み寄っていくのではなく、働き方のひずみを全部保育でカバーしようとしてきた側面があった。もう少し前に進む議論をすべきだろうし、保育は保育で質・量とも充実させながら、同時に働き方のひずみも解消していくという本筋は押さえておきたい。

- ・少子化対策の1つは子どもの数を増やすことだが、不登校やひきこもりになってしまっ
ては、頭数は増えても日本の未来の支え手にはならない。数はもちろん大事だが、同時に、
生まれてくる子どもたち一人一人がより健やかに、心豊かに、たくましく育て、未来の
日本をしっかりと支える人材として成長していくという質の面も重要である。保育や子育て
支援を充実させることは、より健やかでたくましい子どもを育て、それを支える家庭環境
を整えるという意味で、質の面で貢献できると考えている。

- ・今、“保育”の質が問われている。保育所という養護と教育が一体となった保育に加え
て、質の高い幼児教育、あるいは家庭、地域社会という子どもの環境そのものを下支えし
ていくという柔軟な子育て支援も広い意味で保育だと思っている。それを全部ひっくるめ
て保育の質が問われていると思うので、あえて“保育”と表記した。

- ・質は非常に多面的、重層的なものである。保育者の処遇改善、研修による質の向上、先
生方が子どもをもっと手厚く、きめ細かく見られるように職員配置の基準を充実すること、
ハード面も含めて子どもの保育環境を変えること、さらに、実際に質について点検評価す
るシステム、カリキュラムや指導計画のレベルでの見直し・改善も必要であり、総合的な
観点から質の議論をいただければありがたい。

- ・今、子どもの育ちの姿に異変が生じていると感じている。それは子どもの貧困問題、あ
るいは家庭、地域社会という子どもにとって最も身近で重要な環境の機能が低下してきて
いることにあるのではないか。私は、子どもに障害があろうがなかろうが、母子家庭だろ
うが三世同居の家庭だろうが、高所得家庭だろうが低所得家庭だろうが、子ども全てに
質の高い保育を保障することが基本であるべきだと思っているが、それは保育だけではカ
バーできない。家庭、地域社会という子ども環境の機能の再生も同時に考えなければいけ
ないと考えている。

- ・6ページに、子どもの貧困を捉える多様な側面として3つ上げている。これまではとも
すれば経済的な貧困ばかりが言われていたが、もっと深刻なのは関係性の貧困と経験の貧
困である。今は経済的に豊かな家庭であったとしても、関係性の貧困や経験の貧困に陥り
つつあり、そのひずみが子どもに寄せられている。

- ・EUの保育政策にも通じているE.メルウィッシュ・オックスフォード大学教授によれ
ば、家庭の経済力によって子どもの発達遅延率に変化が生じている。簡単に言えば、家庭
の所得が低いほど子どもは発達遅延を起こしやすい。もう一つは、どの経済力の家庭層で
あっても、幼児教育・保育を受けているほうが、子どもは発達遅延を起こしにくいとい
うことである。

- ・イギリスでは、家庭経済力を生活保護家庭、労働者階級家庭、専門職の家庭の3階層に
分けている。専門職とは、親が医者、弁護士、あるいは公務員、学校の先生など、学歴も
高く収入も高い家庭と考えていただければよい。その3階層ごとに、子どもが1年間に親
からかけられる言葉の量を比較すると、生活保護家庭の場合は50万語ちょっとであり、

専門職の家庭はその4倍以上に当たる2,000万語を優に超える。この違いが子どもの言語能力の発達に大きく影響することが明らかになっている。

さらに、言葉の質で比較すると、生活保護家庭の子どもは、肯定的な言葉はほんの少ししかかけられずに、禁止語、否定語をたくさん浴びせられており、専門職の家庭は、肯定的な言葉が圧倒的に多く、禁止語、否定語は極めて少ない。これは、言語能力やコミュニケーション能力の発達に影響するとともに、ある種の非認知能力に影響することがいろいろな調査で明らかになっている。

・家庭だけでなく地域社会も劣化してきている。子育て家庭から見て近所付き合いが多いほど育児・子育ての不安、負担、悩みは少なく、自分が子どもの時期により小さい赤ちゃんの面倒を見た経験を持っている人ほど、いざ自分が親になったときに子育ての悩みが少ない。あるいは早く結婚して子どもが欲しいと思う割合が高いことが明らかになっている。

・今は共働き家庭より専業主婦家庭のほうが苦勞している。近所付き合いがなく、子育てをワンオペでやらなければならない。

・数年前のデータだが、未就園児が全国で187万人、その98%余りが3歳未満児であり、3歳未満児全体の6割強に当たる。この未就園児家庭の子どもが幼児虐待のリスクに最もさらされており、ゼロ歳児を中心に幼児虐待で亡くなる子どもが最も多いのがこの部分になる。

・未就園児家庭は一般的に子どもとその母親というケースが多く、年代にかかわらず虐待の当事者で一番多いのは実の母親になる。ここに光を当てなければならないことは昔から分かっていたが、これまでは待機児童の解消が最優先事項であり、そこにエネルギーを注がざるを得なかった。

・しかし、急速に少子化が進み、想定以上に早く待機児童が実質ゼロに近くなった。施設によっては定員割れが生じる状況になり、これまでの待機児童対策一辺倒だった保育政策は大きな転換点を迎え、ようやく本来必要な部分に人的・物的資源を向けることができるようになった。

そこで、定員割れを起こした保育所や認定こども園の施設、スタッフを活用して、これまで光を当てられなかった未就園児及びその保護者に対して、定期的な預かりモデル事業を行い、これを行く行くは全国事業として普遍化していこうというのが今の流れになっている。

・未就園児を何時から何時まで預かるのがいいのか、給食とかおやつはどうすればいいのか、単なる託児所ではないので、子どもの育ちのカリキュラムと中身を考えなければならない、それをどういう資格の人がやればいいのか等々をしっかりと検証し、併せて、子どもの親、とりわけ母親に対して相談支援をはじめ、地域の人とのつながりがつくれるような支援をするのが、今回の新たな事業のポイントである。

・今までの一時預かりは、冠婚葬祭その他の緊急一時的なものだったが、その後、親のリフレッシュのための利用も可能になった。それに対して今回は、未就園の子どもの育ちをメインに据えて、地域の中で関係性の貧困、経験の貧困にさらされている子どもの育ちにつながる受入れと保育を提供するのが主眼になっている。

・子どものよりよい育ちのためには、家庭という子ども環境もよりよくなってほしい。そのために、ただ子どもを2日受け入れるだけでなく、保護者自身が明るく前向きに子育てができる、あるいは保護者のストレス、不安が軽減されるような支援もやろうということ

である。

・今の国の考えでは、この事業は給付でやることになっている。今までの一時預かりは補助金であり、モデル事業も都の事業も補助金だが、国の給付制度はパーマネントな話になるので、やりたい事業者は条件を満たせば誰でもやれる。それに対してしかるべき公費を入れるという仕組みになる。

・私は、順調に行けば2025年度からこの全国事業が始まるのではないかと考えているが、大事なのは、国がつくったら終わりではなく、それを都道府県、市町村が自治体版、地方版のこども計画として推進しなければならない。年内にこども大綱が閣議決定されるので、品川区でもそれを踏まえて改めて検討しながら、こども計画をつくることになると思う。この会議も密接に関わることになるので、頭の片隅に入れていただければと思う。

・今回、こども家庭庁ができたものの、残念ながら幼稚園・幼児教育は文部科学省に残ったので、幼稚園教育要領は文部科学省がつくるが、子ども家庭庁ができたことによって、一元的、総合的に子どもの育ちが踏まえられていくと思う。

・品川区において、5年を1期とする事業計画の第3期計画の策定に今年度から入っていく。2年後の令和7年4月からは第3期の品川区子ども・子育て支援事業計画となる。品川区の多様な地域特性を踏まえ、品川のよさを前提に、子どもや少子化、その他の社会資源に関わる様々なデータの過去・現在・未来を整理しながら、未来に向けて子ども・子育て家庭が品川区においてどれだけ前に進んでいけるのかを議論し、それを計画という形にしていくわけである。

・そのためには、理念・哲学が要る。1つは、全ての子どもに質の高い幼児教育・保育を例外なく保障する。もう一つは、子どものみならず、子育て家庭に対して、いかなるライフステージの変化や就労状況の変化があろうとも、切れ目のない、シームレスな支援をする。さらに、関係性、つながり、絆という観点から、それぞれの地域が子ども・子育てに優しいまちづくりをするという視点で進めていかなければならない。

・もう一つは、昔の計画は全て国・都・区といった行政と、その下で事業展開しているこども園や保育所、幼稚園などの施設、いわゆる供給側の発想で進められてきたが、今度つくる計画は、幼児教育、保育、子育て支援を受ける側の子どもたちや保護者、場合によっては地域住民など、需要の側が主体となった発想で作り、推進することが重要だ。そのためにこの会議があり、施設関係の供給側の方もいれば、保護者、PTAの方、公募委員の方など、どちらかというとな需要側の代弁者が入っている意味合いはそこにある。それぞれの立場のそれぞれの思いを融合させて、未来志向で前に進んでいくための貴重なご意見を賜りたい。この会議の役割は、計画をつくる議論だけではなく、できた5年計画の進捗状況を管理しながら、その改善にも関与していただくことなので、ぜひそういう観点から積極的にご参加いただき、ご意見をいただければと思う。

■会長

・事前に委員からいただいている質問に区からお答えする。

■事務局

問) 近所付き合いが豊かになる方策を検討する予定はあるか。

答) 地域のつながりが子育ての孤立化を防止し、負担感を和らげるという調査結果もある

ことから、近所付き合いが豊かになる方策等について所管部署と連携しながらこれまで以上に進めていきたい。

問) 大人になる前に子どもと関わった経験が多いほど子育ての悩みや不安は少ないということだが、多くの人が初めての経験となる子育ては、多かれ少なかれ悩みが出てくることは目に見えている。子育てに悩んでから相談・施策を講じるのではなく、子育てに悩む前に子どもを育てる親自身に対して、1人で子育てするべきではない、多くの人にサポートしてもらいながら子育てをすればよく、一番大切なのは親自身が笑顔でいることだというマインドを伝えることが重要。そのために出産前の両親学級や出産後の乳幼児検診等で定期的に赤ちゃんの発育に関する情報のインプットだけではなく、「子どもも親自身も笑顔の毎日につながるポイント」について親自身が教育を受ける場（子どもを預かっていたとき、親自身が自分と向き合い、自身にある悩みの真の原因は何かに向き合う機会）が必要と思う。親自身に焦点を当てた施策を実施されたい。

答) 現在、品川区子育てかんがるープラン、子育てひろば、事業相談、チャイルドステーション事業、ネウボラ相談事業などを実施しており、子育て中の親の心の変化にも寄り添った支援を行っている。今後も関係部署と連携しながら取り組んでいきたい。

問) モデル事業の中の定期的な面談は具体的にどのようなことをするのか。

答) 通常の在園児とは違って新たな未就園児になるので、園長先生や実際に保育に当たっている方々が、一定程度の期間で面談を繰り返していくことを想定している。

■副会長

・2年後か3年後に始まるこども誰でも通園制度だけで育児負担、孤立感を解消できるわけではない。いろいろな施策の組合せによって多面的、多角的に浸透しながら効果を及ぼすものであって、逆に言えば、利用の仕方やどんなサービスがどうつながるかを保護者、利用者いかに分かりやすく情報提供するかが課題だと思う。大事なことは利用者に活用してもらうことであり、そのための方策について意見をいただきたい。

・近所付き合いという話をしたが、区の長期総合計画の中でもまちづくりや人と人とのつながりを重視している。特に関係が濃いものについて、事務局からその都度資料を出していただければ理解しやすいかと思う。

・こども誰でも通園制度やモデル事業は、預かってもらう時間だけ親の育児負担を軽減するという発想は全くない。第一義的には、週1日か2日であっても子どものより健やかな育ちを保育の側でしっかり保障する。保護者に対しても、預かっている時間だけリフレッシュしてもらうのではなく、保護者と向き合って必要な相談支援やほかの人とのつながりができるきっかけづくりも含めてサポートするものをご理解いただきたい。まだ試行錯誤の段階なので、前に進むアイデアやご意見をいただければと思う。

■会長

・今はフルタイムで働く女性が増え、高齢者も定年を70まで延ばしてはどうかという話も出てきている。コロナ禍でありながら税収が上がっているのは副業を持つ人が増えている結果であり、それだけ社会全体にゆとりがなくなっている。そういう中で杉山委員は、

仕事を持ちながら父親の会をつくるなど、人とつながるための活動をされている。

・近所付き合いをなさいと行政が言い出したら、私は危険だと思う。結果的に近所付き合いになるような施策を考えることはできるが、それ自体を目的にしたら、昔の向こう三軒両隣みたいなことになっていくおそれもあるので、それはできるだけ民間の、ボランティアな力で埋めていくのが本来の在り方だと思う。杉山委員が、忙しい中でどのようにして時間を生み出しておられるのか、次回以降お話いただければ参考になると思う。

いずれにしても、悩んでいる人、困っている人に寄り添うところからスタートすることも大事だと思っている。

②今年度の会議予定について

■会長

・最後に、今年度の会議予定について事務局から説明する。

■事務局

・今年度は本日を含めて3回の会議を予定している。また、第2回の会議の前後になると思うが、区内の子ども・子育てに関連する施設の視察を考えている。いずれも日程が決まり次第、速やかに連絡させていただく。

なお、今後の議題をどのように決めていくのかという質問を事前にいただいたが、議題については、事務局のほうで開催時期に応じて審議または報告が必要な事項を精査し、皆さんにお諮りしていく形で進めさせていただきたい。

3. 閉会

■会長

・非常に動きが激しいので、区のほうでもまだ断言できない部分もあると思う。議題については練っていただくようお願いしたい。区の関係施設への見学会もセットされるようなので、ご期待いただければと思う。

言い足りない方々がいっぱいおられると思うが、第1回目はこれで終了する。

— 了 —